Course number	U-LAS02 10017 LJ36				
Course title (and course title in English)	ドイツ文学 German literature		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Letters Professor,KAWASHIMA TAKASHI	
Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Arts, Literature and Linguistics(Foundations)		
Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester
Days and periods	Mon.5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

ジェンダーという観点は今日、ドイツ文学研究における大きな前提の一つとなっている。新たな問題意識にもとづき、長らく古典とされてきた作品の読み直しが進む一方、これまで文学史上で大きく扱われることがなかった女性作家の作品や性的マイノリティのテーマなどに光をあてる作業が続いている。この授業では、日本でも比較的よく知られた作家・作品を中心的に取り上げ、文学作品のジェンダー論的な読み方の例を示すとともに、時代ごとに異なる社会状況の中で文学的な想像力がジェンダーの革新のために果たした役割について考察する。

[Course objectives]

１．ジェンダー論的なものの見方について学ぶ
２．文学作品をジェンダー論的に読むという読み方を知る
３．ジェンダー問題に対して文学が何をすることができるかを考える

[Course schedule and contents)]

第１回　イントロダクション――ジェンダーとは何か
第２回　中世のミンネザングの男女観
第３回　レッシング『エミリア・ガロッティ』――啓蒙主義の新たな家族像
第４回　ゲーテ『若きヴェルター の悩み』――後期啓蒙と感傷主義
第５回　グリム兄弟『子どもと家庭の童話』――ロマン主義の女性像
第６回　ロマン派の女性作家たち
第７回　クライスト『ペンテジレーア』――ジェンダーの攪乱
第８回　ドロステ＝ヒュルスホフ『ベルタ』――両性具有の芸術家像
第９回　シュピーリ『ハイジ』――強い女性と弱い男性
第10回　リルケ『マルテの手記』――男性の危機①
第11回　カフカ『失踪者』――男性の危機②
第12回　トーマス・マン『ヴェニスに死す』――同性愛と少年愛
第13回　コイン『人工シルクの女の子』――ワイマール共和国時代の「新しい女」
第14回　ヴォルフ『カッサンドラ』――フェミニズムとその限界

[Course requirements]

None

Continue to ドイツ文学(2)↓↓↓

ドイツ文学(2)

[Evaluation methods and policy]

授業中の小課題にもとづく平常点（50%）および期末レポート（50%）で評価する。

[Textbooks]

Instructed during class

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業で扱う／扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

[Other information (office hours, etc.)]

[Essential courses]